



《編集・発行》

相模原市農業委員会
相模原市中央区中央2丁目11番15号
Tel 042-769-8292 (直通)

農業のうごき

農地等の利用の最適化の推進に関する意見を提出しました



8月30日に「平成30年度相模原市農地等の利用の最適化の推進に関する意見」及び「相模原市農業施策に関する要望」を農業委員会高橋会長から相模原市長（梅沢副市長が代理出席）へ手渡しました。

この意見と要望は、農業者の皆様から、農業委員や農地利用最適化推進委員へ寄せられた意見や要望を市政に反映させるために提出したもので、提出後に行われた懇談では、有害鳥獣被害対策、新規参入者への支援、販路拡大等について意見交換が行われました。

◀高橋会長（右）から梅沢副市長（左）へ意見書を手交（後方は、農業委員会役員）

【意見の概要】

- 遊休農地の発生防止・解消について
 - 有害鳥獣対策を効果的に進めるため、被害防除対策を総合的に行う専管組織を新設すること。
 - 第4次神奈川農二ホンザル管理計画に基づく事業を、県と共に確実に実施すること。
- 担い手への農地の集積・集約化について
 - 中山間地域における新たな圃場整備を検討すること。また大日野原圃場への進入路の整備を行うこと。
- 新規参入の促進について
 - 新規参入者の定住促進のため、空き家のあっせんや家賃補助等の支援を検討すること。また、女性新規就農者が活動するための就農環境を整備すること。
 - 新規参入者の就農継続のため、学校給食への出荷支援対策などを充実すること。

【要望の概要】

- 地場農産物の販路拡大等について
 - さがみはら都市農業振興ビジョン2025で掲げている「直売所等の活用による販路拡大の支援」を着実に実行すること。また、農業者と商業者との連携について支援をすること。
 - 相模原市農協と津久井郡農協に対して、農協の直売所への出荷方法、新たな販売場所の設置、農業者相互の連携のコーディネートなどについて働きかけること。
 - 民間スーパー等の敷地やインショップ方式を活かした販売所の設置を商業関係者に働きかけること。
- 生産緑地制度について
 - 生産緑地法の改正について、必要な情報を発信し、優良農地の保全策について準備を進めること。（意見・要望の詳細については、市ホームページに掲載します。）

農地等の利用の最適化の推進に関する意見を提出しました	1
農地利用最適化推進委員が活動事例を報告！、新規就農者と農業委員との意見交換を実施しました	2
農地の利用意向調査を実施します、第53回相模原市農業まつり開催	3
がんばる若手農家さんの紹介No.5（林秀宣さん）、今旬レシピNo.4（炊き込みご飯）	4

がんばる若手農家さんの紹介 No.5 ～野菜の美味しさを、多くの消費者へ～



林 秀宣さん

栽培品目

小松菜、ほうれん草、にんじん、水菜、チンゲン菜、かぶ 等

出荷先

ベジタペーな
ヤオコー（光が丘店・鹿沼台店）
三和（上溝店・富士見店）
sagamix

Q. 農業をはじめようと思ったきっかけは何ですか。

A. 将来は、手に何か職をつけ、自分で独立して仕事をやりたいと思っていました。農業に決めたのは、公民館の活動推進員をやっていた頃、相模原市と農協で開催した市民の研修講座の中で、NPOの援農さがみはらに登録して、農家さんの元へボランティア活動に行ったことがきっかけです。その農家さんも独立して就農された方で、作物を育てる喜びや経営の大変さも知りましたが、是非農業にチャレンジしたいと思い、新規就農しました。

Q. 実際に就農して苦労したことや、やりがいを感じる瞬間はどんなときですか。

A. 天候や病害虫の影響で自分の思った通りの作物ができないことに苦労します。今は、「栽培技術を早く向上させ、効率よい作業で良い作物を作る」ことを目標としていますが、日々、研修先で学んだ事をベースに、自分で試行錯誤をしながら少しずつ変化を加え、どういう結果になるのか実証しながら作物を栽培しています。農業をやっていく上でやりがいを感じる瞬間は、自分の野菜を食べた方に「美味しい」と言われたときです。直売所などで納品しているとき、自分の野菜を買っていくお客さんを見かけると、「自分の野菜を食べていただいている」ということが実感できて嬉しいし、それが一番の励みになっています。

Q. 今後の目標や抱負をお願いします。

A. 経営規模を大きくしていきたいです。また自分の野菜を多くの方に知ってもらい、美味しさを体感していただける方がもっともっと増えるよう、日々頑張っていきたいです。

今旬レシピ No.4

地元の食材を使った、今「旬」の味をご家庭で…
今回は、「旬」の旨みがギュッと詰まった干しいたけを使った炊き込みご飯を紹介します♪

本日の一品
炊き込みご飯



完成イメージ

作り方

- 炊く30分前には米を洗い、水を控えめに入れておく。
- ぬるま湯で干しいたけをもどし、軸を切り落とし薄切りにする。
- ごぼうはささがきにして水でアクを抜き、油揚げ・にんじん・こんにゃくを千切りにする。
- 洗った米が入った炊飯器のお釜に、調味料と②、③の具材を入れ全体を混ぜ平らにならし、水を適量になるまで足してから炊き上げる。
- 炊けたらよく蒸らし、全体を混ぜ、茶碗に盛ったら出来上がり♪（※お好みで紅しょうが、青のりをどうぞ）

材 料 (5～6人前)	
米	3合
干しいたけ	5個
油揚げ	1枚
にんじん	小1本
ごぼう	20cm
こんにゃく	適量
調味料:	
塩	小さじ1
しょう油	大さじ1
酒	大さじ2

このコーナーでは、地元の食材を使った旬のレシピを募集しています。ぜひ皆様のご家庭で味わえる旬の味をお寄せください！（郵送・FAX等）

応募先：〒252-5277 相模原市中央区中央 2-11-15
相模原市農業委員会事務局
(TEL042-769-8292 / FAX042-754-1064)

※必ず記載【料理名、材料、作り方、完成例（写真かイラスト）、住所、氏名、電話番号】

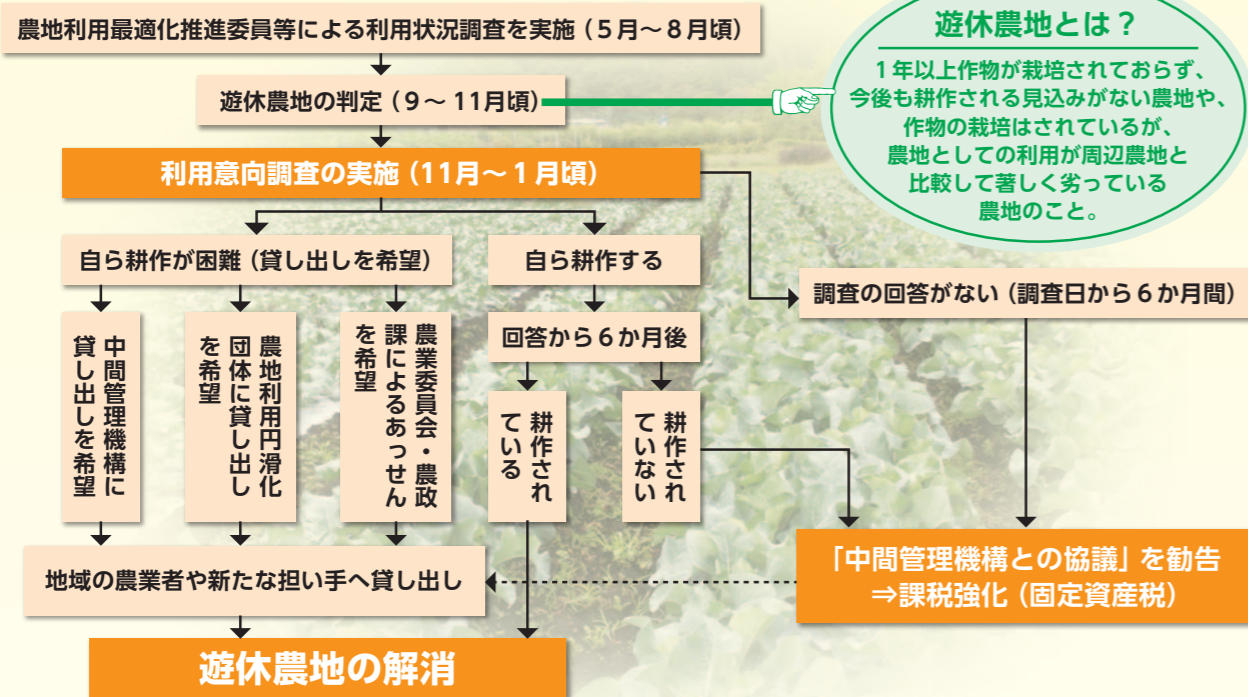


農地の利用意向調査を実施します

農業委員会では、毎年農地利用最適化推進委員を中心に、農地の利用状況を把握するための調査を実施しています。この調査により遊休農地と判定された農地の所有者には、農地の適正な利用や担い手への農地利用の集積・集約化を推進するため、農地の利用意向調査を実施します。利用意向調査では、今後、自ら適正に耕作するか、自ら耕作することが困難であるため貸し出しの意向を示すかの、いずれかを選択して回答いただきます。

貸し出しの意向が示された農地については、農地中間管理機構、農協、市農政課等と連携し、農地中間管理事業などの制度を活用して地域の農業者や新たな担い手へ貸し出すことにより、遊休農地の解消につながります。

農地を所有されている方には、農地の適正管理に努めていただくとともに、遊休農地の発生防止及びその解消にご協力をお願いいたします。



市内農産物の旬の味覚を楽しもう！

—潤水都市さがみはら—

第53回 相模原市農業まつり開催

入場無料

平成29年11月12日(日) 午前9時15分～午後2時30分 雨天決行

「魅力とおいしいのある都市農業をめざして」をテーマに、相模原市内で生産される農産物を身近に感じて頂くため毎年開催される農業まつり。農産物の品評会や即売会が行われるほか、卵のつかみどりなど、楽しいイベントが盛りだくさん。飲食コーナーでは、地元の食材で作った料理をおなかいっぱい味わえます！

【内容】 ○農業委員会の展示 農業委員会の活動紹介 ほか

○農畜産物の販売

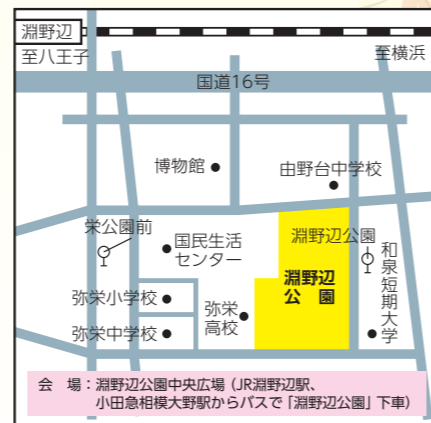
野菜、植木、鶏卵、米、農産物加工品(漬物・おやき・豚汁・焼き鳥・手作りハム・ダチョウ加工品・プリンほか)、津久井在来大豆加工品、相模川産アユのPR販売、銀河産物産(ノシロ共和国・サク共和国) ほか

○共進会の開催 乳牛、鶏卵、柿共進会

○イベント

子牛の展示、市内農産物を使った料理紹介、卵のつかみ取り、バター作り体験、相原高校・麻布大学・相模女子大学・北里大学コーナー、食育コーナー ほか

主催：相模原市農業まつり実行委員会(相模原市役所農政課内)
お問い合わせ：相模原市役所農政課 TEL/042-769-8239



農地利用最適化推進委員が活動事例を報告！

8月8日に開催された第8回農地利用最適化推進委員連絡会で、地区の課題やその改善策の情報共有を目的として4地区の推進委員が自らの活動事例を発表しました。農地等の利用の最適化の推進に取り組む上で大きな課題となっている遊休農地や有害鳥獣被害の現状、改善策を中心に報告され、発表後は他地区の委員から多くの質問や改善案の発言もあり、活発な意見交換の場となりました。今後も定期的な事例発表を通して推進委員の活動に生かしていきます。



新規就農者と農業委員との意見交換を実施しました



10月4日に、農政運営委員が農業委員会の必須業務である「遊休農地の発生防止・解消」「担い手への農地利用の集積・集約化」「新規参入の促進」を進めるため、津久井地域に新規就農し、農事組合法人「つ組」を設立した3名(吉見敦司氏・春田耕平氏・柴山智博氏)の圃場を視察し、意見交換を行いました。3名からは、「良質な農地が少なくなっている」「労働力をもっと増やし、経営規模を拡大したい」など、説明とともに多くの意見を聞くことができ、委員からは、「鳥獣被害」「空き家問題」「販路拡大」など様々な質問がありました。その結果、「新規参入者のために、様々な情報を一つに集約しなければならない」、「地域としての受け入れ体制を整備する必要がある」などの課題の共有が図られました。